

## 生物多様性保全—「ACORN」活動

オカムラグループの事業活動は、自然環境からの恵みを受けて成り立っており、同時に自然環境に対して影響を与えています。木材等の自然資源を利用する企業としての責任を認識し、「ACORN」活動指針や「木材利用方針」に基づく取り組みを通じて、人と自然が共生し、自然がもたらす「生態系サービス」\*を持続的に享受できる社会の構築に貢献します。

\* 生態系サービス：生物多様性によって生み出され、人間が恩恵を受けている自然の「恵み」のこと。「供給サービス」「調整サービス」「文化的サービス」「基盤サービス」の4つに分類される

### オカムラグループの事業と生物多様性の関係

オカムラグループでは生態系サービスの基盤である生物多様性の損失は、「自然災害のリスクの拡大」「作物・森林・その他自然資源供給の減少」「感染症発生リスクの拡大」を及ぼす重要な課題と認識しています。

こうした認識のもと、事業活動における環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

今後はTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）提言を参考に、活動を発展させていくとともに、情報開示に取り組む予定です。

### 地域環境の保全に関する調査の実施

オカムラグループでは事業活動において地域の環境に影響を及ぼすリスクを認識し、静岡県御殿場市にある富士事業所にビオトープを整備したことを機に、自然環境の変化の調査をスタートしました。生物多様性の指標といわれる野鳥を調査することで、ビオトープが周辺地域の環境をアシストできているのかを評価し、管理手法の見直しにもつなげていきます。専門家のサポートを受け、調査には従業員も参加しています。

（関連 [▶ P.64](#)）

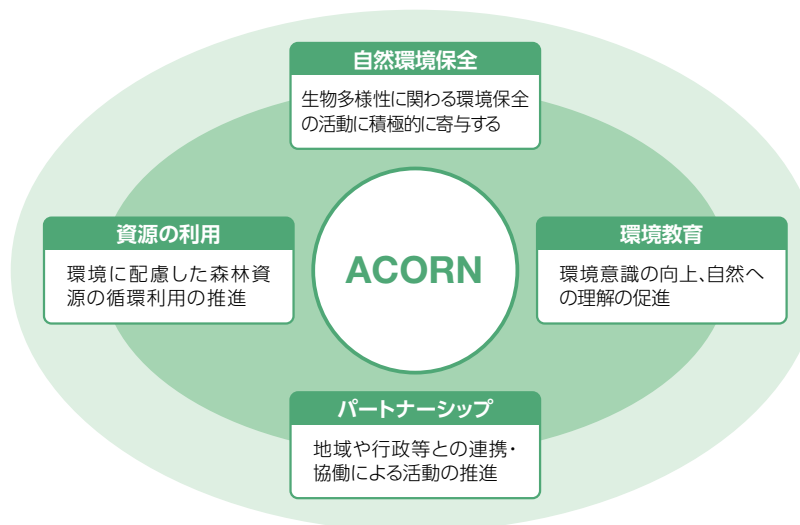
### 森林資源の利用に伴う環境リスクへの対応

毎年、使用する木材の樹種・取り扱い量・原産地を調査・把握しています。絶滅危惧種については、ワシントン条約（CITES）\*1や「JOIFA 重点管理材」\*2に照らし合わせて、該当する木材を利用していないことを毎年調査・確認しています。（詳細 [▶ P.62](#)）

\* 1 ワシントン条約（CITES）：「絶滅のおそれのある野生動植物の国際取引に関する条約」

\* 2 JOIFA重点管理材：ワシントン条約などをもとにオフィス家具の業界団体である一般社団法人日本オフィス家具協会（JOIFA）が選定した木材で、使用実績の把握など使用状況に関して管理をしている木材

### ACORN活動指針 （2021年12月策定）



### 「ACORN」活動指針

オカムラグループは、自然との共生に向けたアクションを「ACORN（エイコーン）」と名付け、活動指針に基づき、資源の利用、環境教育、自然環境保全、パートナーシップの4つの視点から取り組みを推進しています。ACORNは、英語でどんぐりを意味する言葉です。次の種（しゅ、たね）をつなぐためになくてはならない存在であるどんぐりを、オカムラの活動の象徴としました。



ACORN

ロゴマーク

## 資源の利用

オカムラグループは自然資本に依存していることを認識し、持続可能な資源の利用を目指します。

### 「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく取り組み

2009年10月に策定した「オカムラグループ 木材利用方針」において、生物多様性の保全、木材の合法性の確保、森林認証材や国産材・地域材の利用などに関する考え方を明記し、本方針に基づき森林資源の持続可能な利用を推進しています。

#### オカムラグループ 木材利用方針

1. 以下の木材を利用しません。
  - 1) 絶滅危惧種
  - 2) 違法に伐採・生産・取引された木材
  - 3) 森林生態系や地域社会に悪影響を与えている木材
2. 以下の木材の利用を拡げます。
  - 1) 信頼のある森林認証を受けた木材（または同等の証明のある木材）
  - 2) 建築廃材・リサイクル材
  - 3) 国産材・地域材

## 木材の利用状況

2023年度のオカムラグループ全体の原材料投入量の3.7%が木質材料です。木質材料のうち94.9%が間伐材\*1、廃木材、未利用材およびそれらの二次加工品など「原木を材料としない木質材料」となっています。

### オカムラが使用する木材の樹種・原産国と取り扱い量（2023年度）

樹種	材形状	取扱量 (m <sup>3</sup> 換算)	輸出国・地域 (原産国)
ラワン	無垢材*2、合板*3、成型合板、積層材	825.91	インドネシア、マレーシア、日本、フランス
ポプラ	無垢材	41.15	東南アジア
カプール	無垢材、合板	125.00	マレーシア、フランス
ラバーウッド	無垢材、集成材	28.16	タイ、ベトナム、ベルギー
ビーチ	無垢材、合板、突板	241.24	ニュージーランド、フランス、北欧、ドイツ、他
ブナ	無垢材、合板、成型合板、突板、集成材	309.89	デンマーク、ドイツ、日本、北欧
ヒノキ	無垢材、集成材	0.00	日本
ホワイトオーク	無垢材、単板、突板	2.62	日本、北米、他
アユース	単板、突板、集成材	0.31	アフリカ、アメリカ
ローズウッド	突板	0.15	東南アジア、南米
その他	無垢材、合板、突板など	143.29	
<b>合計</b>		<b>1,717.72</b>	

\*1 間伐材：樹木の生長に伴って、混みすぎた立木を一部抜き伐りする際に発生した木材

\*2 無垢材：原木から板などを直接、必要な寸法に切り出した材

\*3 合板：丸太から薄くむいた板（単板）を、繊維（木目）の方向が直交するように交互に重ねて接着したもの。通称ベニヤ板

## 「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく製品開発

オカムラグループは、「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく製品開発を行い、それらの製品を用いた空間をお客さまに提案することで、森林の健全化とともに森林資源の持続可能な利用を推進しています。

### 木質リサイクル資源の利用

1966年、木質リサイクル資源\*を主原料とするパーティクルボードを、オカムラが日本で初めて家具に導入しました。以降、デスクシステムや会議テーブルなどの製品の芯材としてパーティクルボードやMDF（中密度繊維板）を利用するなど、幅広い用途へ拡大し、木質素材の資源循環を促しています。（データ集 ▶P.155）



\* 木質リサイクル資源：木材原料を繊維状または小片に細分化し、これを接着剤などの結合剤によって再構成した板材。前者の製品例として中密度繊維板（MDF：Medium-Density Fiberboard）、後者の製品例としてパーティクルボードがあり、主原料は木質リサイクル資源

### 「未利用材」の活用

未利用材の活用は、森林整備に寄与するとともに、災害時の流木などによる被害の防止など、社会課題の解決にもつながります。（関連 ▶P.71）今まで家具に使われてこなかった、森林整備の際に発生した不要な樹木や切り捨て材のうち、未利用の材を積極的に活用する取り組みを進めています。

### 国際的な認証の取得

オカムラは、2010年6月、国際的に認知された森林認証制度であるFSC®認証\*1（CoC認証\*2）を取得しています。FSC®認証材を使用した製品は、環境・社会的な問題のリスクの低い原材料が責任をもって調達され、使用されていることを意味しています。

2023年度の木質製品のうちFSC®認証材の使用率は5.30%でした。

\* 1 FSC®認証：適切に管理された森林を認証する国際的な認証制度。FSC（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする国際的な非営利団体



\* 2 CoC（Chain-of-Custody）認証：FSC®認証における生産・加工・流通過程の認証

- ・認証番号：SGSHK-COC-350013
- ・トレードマークライセンスコード：FSC-C092797

### 木材の合法性等の確保

一般社団法人日本オフィス家具協会（JOIFA）による木材・木材製品の合法性に関する事業者認定を受けています。また、グリーン購入法に基づき、製品ごとに木材の合法性\*に関する調査、使用実績報告等を実施し、合法性・持続可能性が証明された木材・木材製品の使用や販売推進に努めています。

\* 木材の合法性：木材の伐採にあたって、原木が生産された国または地域における森林に関する法令に照らし合わせて、手続きが適切になされたものであること



責任ある森林管理のマーク

### 国産材・地域材の利用

日本の森には伐採時期を迎えたスギやヒノキが大量に余っており、今まさにそれらを使うことが森林環境の循環やCO<sub>2</sub>の削減に役立ち、地域産業の活性化にもつながります。

オカムラではこれまで建築用材としてしか使うことができなかった針葉樹材を、高度な技術により反り割れのリスクが非常に低い家具用材に仕立て、高品質な家具をつくることで国産木材の信頼性を高め、木材活用の普及と定着を目指します。また、東京都港区が進める、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度に事業者として登録しており、港区と協定を締結した自治体の木材利用を通じ、「都市の木質化」を促進しています。



みなとモデル二酸化炭素固定認証制度のロゴマーク



高知新聞社様 本社  
高知県産のヒノキを使った本社受付カウンター。板目/追板目/板目、節あり（板目節・板目節）/節無しなどさまざまな表情のある無垢材で構成した立体的な多面体の幕板が特徴。

## 自然環境保全

オカムラグループは自然環境の保全に向けた取り組みとして、体験型研修を通じた意識の醸成や、社内敷地内に地域固有

の自然環境の保全を目指したビオトープの整備を行っています。今後も定期的なモニタリング調査と評価を継続していきます。

## TOPICS

### 冬鳥のオアシス「ビオトープ富士」

ビオトープ富士を整備した2022年9月以降5回にわたり、外部パートナー\*の協力を得て、「生物多様性の指標（ものさし）」と言われている野鳥を中心に調査を実施しています。

2030年までに生物多様性の損失を食い止め、反転させ回復軌道にのせる「ネイチャーポジティブ」の目標に貢献できる場所として、「ビオトープ富士」を維持管理していきます。

\*外部パートナー：太平電機ECOひいきプロジェクト

#### ● 確認できた野鳥：19科25種

双眼鏡、望遠鏡、カメラを使った定点調査と、外周ラインセンサス調査を実施。冬鳥のツグミ、ジョウビタキを含む25種。静岡県の野鳥の6.0%、日本の野鳥の3.95%に当たる種類が確認できた。

#### ● 見られた野鳥の行動

**採食行動**：留鳥、渡り鳥の命をつなぎ、繁殖時には親鳥と雛にとって重要な行動。

- ・地面に敷いたウッドチップの間にいる昆虫や種子をつついて
- ・猛禽類がキジバトを採食した痕跡

**繁殖（関連）行動**：次世代につながる、生物にとって最も重要な行動。

- ・メスを呼ぶ、縄張り宣言のためのオオカワラヒワ等のさえずり
- ・幼鳥、若鳥の姿（ヒヨドリ等）の確認

#### ● 新しい保全活動と期待

- ・冬の餌の少なくなる時期の手助けとして餌台を設置
- ・箱根西麓林とつながる「緑の回廊」の役割



ウッドチップの隙間をつつくジョウビタキ



猛禽類が採食した痕跡の羽根



蛍光灯カバーをリサイクルして作った餌台

## 「ACORN」活動の浸透に向けた取り組み

「ACORN」活動をより広く社内に浸透させるため、体験型の研修や勉強会、地域の特性を踏まえた環境保全活動等を通じて、環境意識の向上を図っています。

さらに、お客さまにも生物多様性や木材の持続可能な利用に対する理解を深めていただき、活動の輪を広げています。

### 体験型研修による自然環境への意識の向上

オカムラグループの従業員の自然環境保全意識の向上を図るため、さまざまなテーマで実体験を通じた研修を実施しています。

オカムラがオフィシャルスポンサーとなっている一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団が長野県信濃町に所有する「アフアの森」において、2011年度から森の手入れを通して里山や生物多様性の重要性について学ぶ研修を実施しています。また、国産材活用に関心のあるお客さまや自治体などの交流の場として、ワークショップ「WoodLandWoodWork」を開催しています。

2022年度からは、東京都檜原村にある林業を生業とする株式会社東京チェーンソーズが運営する「MOKKI NO MORI」で、「森の経済を回す」オカムラの国産材活用の意義を考える」をテーマにコラボレーション研修を実施しています。研修では、林業の実態などの話を聞き、習得した知識や感性を製品・サービスや業務に生かせる内容となっています。

## TOPICS

## 家具メーカーとして考える森の経済

2023年9月22日、東京都檜原村で社内のさまざまな部署から20名の従業員が参加する研修を実施しました。研修の目的は、木材等の自然資源を利用する企業として、製品の素材である木材についてや、林業の現状について学び、自らが社会課題の解決に貢献するアクションを考えるヒントを見つけることです。

研修では、人工林で木を育て、木材・製品にして販売するための知識や作業について体験を通して学ぶことができます。木材価格、林業従事者、日本の森林の実態をリアルな林業の場で話を聞く貴重な機会です。また自社の国産材、地域材に関する取り組みを改めて知る機会でもあります。

普段営業を担当している参加者からは、「お客さまに国産材の販売促進をするときにしっかりと納得のいく説明ができるようになりました」という感想がありました。

今後も、家具メーカーで働く立場で、自らが社会課題の解決に貢献できるアクションを考える機会を設けていきます。



両挽鋸で丸太と格闘！



森の仕事を体験

 ACORN 社内研修@東京都檜原村 | ACORN (okamura.co.jp)  
[https://acorn.okamura.co.jp/topics/report/2023/10/04/syugou\\_1/](https://acorn.okamura.co.jp/topics/report/2023/10/04/syugou_1/)

## 知見を活かした次世代の育成

森林資源を原材料に利用している企業としての知見、ものづくりの視点からの知識や工夫、木材の利活用の意義や現状などを若い世代に伝え、森林資源の持続可能な利用への理解を広げていくために、以下のような活動を実施しています。

- 小学校での環境出前授業の実施
- 大学での寄付講座
- 産学官連携による木育と地域活性化

(詳細 [▶ P.70](#) )

## 情報発信による活動の展開

「ACORN」活動の環を拓げるために、さまざまな媒体を通じて情報発信を行っています。

## 国産材の利用拡大に向けた情報発信

オカムラでは、国産材利活用のポリシーや積み重ねてきた研究、木に関する知識などを分かりやすくまとめたカタログ「国産材を使う家具づくり」と「オカムラ・日本の木プロジェクト事例集 vol.1-3」を発行しており、今後も継続的に内容の刷新、事例集を発行していきます。お客さまの国産材利活用検討の参考となる情報提供だけでなく、社内のさまざまな部門の従業員が理解を深めることにもつながっています。



『国産材を使う家具づくり』  
 『オカムラ・日本の木プロジェクト事例集 vol.1-3』

## ウェブサイト、冊子の発行による情報発信

オカムラグループの「ACORN」活動を紹介し、多くの方に自然環境や生物多様性に対する理解を深めていただくことを目的として、「ACORN」ウェブサイトを開発しています。また、冊子『ACORN』を発行し、活動レポート、季節に合わせたトピックス記事など、多くの方に楽しみながら理解を深めていただける情報発信に努めています。

 オカムラ ACORNウェブサイト  
<http://acorn.okamura.co.jp/>



冊子『ACORN』

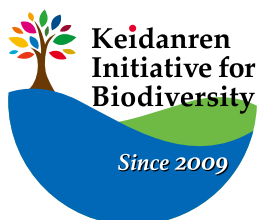
## パートナーシップ

オカムラグループは、環境保全団体等への参加やパートナーシップを通じて、生物多様性保全をはじめとする活動の環を広げています。

### 外部イニシアチブへの参加

開発途上国および国内の自然保護活動を支援するとともに、企業の自然保護活動を促進することを目的に1992年に設立された経団連自然保護協議会に入会しており、「経団連生物多様性宣言・行動指針」に賛同し、その趣旨を踏まえた取り組みを進めています。

 経団連自然保護協議会  
https://www.keidanren.net/kncf



経団連生物多様性イニシアチブ  
ロゴマーク

### バードピア認定の取得

2024年3月、「ビオトープ富士」が公益財団法人 日本鳥類保護連盟の登録認証制度である「birdpia・バードピア\*」に認定・登録されました。バードピアはバードとユートピアを組み合わせた造語で、主として都市域など人間の生活や生産活動の場として利用されている場所を、本来の目的に支障のない範囲の配慮で人と生き物が共存することを目指しています。

樹木等のある場所を保全し、多様な生き物の餌やすみかを提供していることやその管理方法等が「birdpia・バードピア」の審査対象となっています。

オカムラの敷地が野鳥の飛来を通じて近隣地域の自然とつながることで、生物多様性の保全と自然との共生に貢献していきます。

\*「birdpia・バードピア」：公益財団法人 日本鳥類保護連盟の登録商標

